

就業前長期研修修了者の就業状況

1 就業状況

(1) 令和4年度（第一期）生の就業先

単位：人

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
森林組合	—	1	1	2	—	—	1	5
民間企業	2	3	1	—	2	—	1	9
計	2	4	2	2	2	—	2	14

※当初南会津管内へ就業した2名のうち1名は、県中管内の民間企業へ転職した。

(2) 令和5年度（第二期）生の就業先

単位：人

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
森林組合	—	2	1	—	—	1	—	4
民間企業	2	2	2	4	—	—	—	10
計	2	4	3	4	—	1	—	14

(3) 令和6年度（第三期）生の就業先

単位：人

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
森林組合	—	2	—	1	—	—	—	3
民間企業	1	3	2	1	2	—	2	11
計	1	5	2	2	2	—	2	14

(4) 令和7年度（第四期）生の就業先

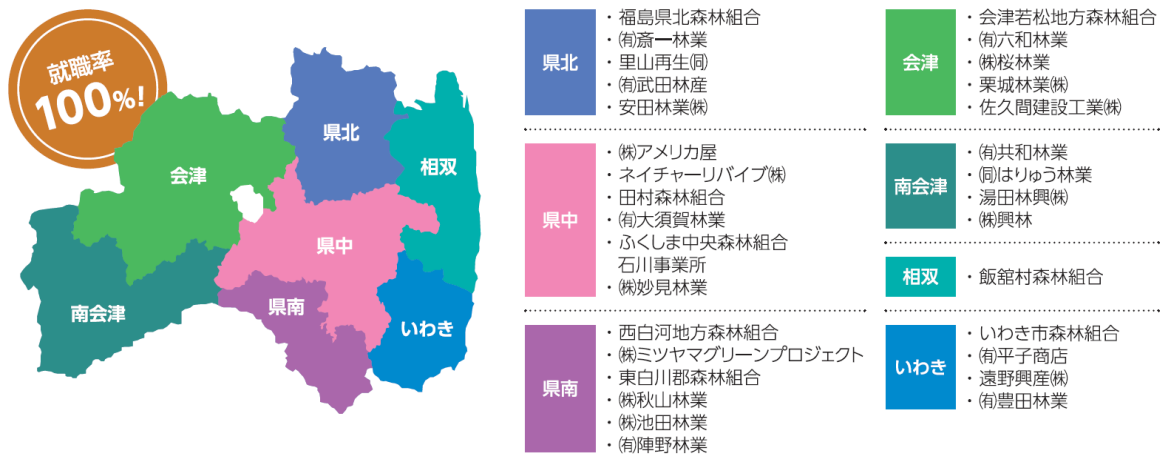
	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
森林組合	2	—	—	—	—	—	—	2
民間企業	1	—	1	—	1	—	1	4
計	3	—	1	—	1	—	1	6



(5) 就業実績

就 職 実 績

研修生全員が福島県内の林業事業者等に就職しました。



(6) 定着率

	就業者数	離職者数	定着率
令和4年度（第一期）生	14人	2人	86%
令和5年度（第二期）生	14人	4人	71%
令和6年度（第三期）生	14人	1人	93%
令和7年度（第四期）生	6人	0人	100%

(7) 離職理由

- ☐ 当初就業した森林組合からは給与面を理由に離職し、その後転職した事業者の業務内容に体力面でついていくことができず林業以外の業種へ転職した。
- ☐ 修了生と就業先との間で今後のキャリアについての考えに乖離があったため離職した。
- ☐ 1年待ってもらった上で就業条件（運転免許取得）を満たすことができなかったため離職した。
- ☐ 元々自伐型林業を行いたいという希望であったが、地域性も含め実現性が高くないと考え林業以外の業種へ転職した。
- ☐ 大学に進学するため離職した。
- ☐ 地元以外で就業したが、地元の森林整備に携わりたいとの思いを持ち離職した。
- ☐ 早起きができず、寝坊等による欠勤が続いたため林業以外の業種へ転職した。

2 定着率向上への取り組み

昨年度に引き続き、前年度の修了生（6名）を対象に個別・集団での面談を実施し、以下の支援を行うことにより定着率の向上に繋げる。

- ・修了生の悩みや不安等を早期に把握し、必要な助言や支援につなげる。
- ・必要に応じて就業先にも情報提供や対応方法の相談等を行い、状況の改善につなげる。
- ・修了生の現状や課題、要望等を聞き取り、研修内容の改善や就職支援の充実につなげることで、次年度以降の修了生の定着率向上にも寄与する。

就業前長期研修生の評価について

1 課題及び評価の必要性について

- (1) 現状、技術の講義における研修生の習得度評価の体制が確立できていない。
- (2) 研修生間の意欲や技術力の差が顕著に現れており、技術不足が原因で就業希望先への就業が叶わないケースもある。
- (3) 研修生の習熟度を適切に評価し各研修生に合った指導を行うことにより安全の確保を図るとともに、技術レベルを客観的に把握し本人に自覚させることで更なる成長を促す効果が期待できる。
- (4) 一定の技術水準を確保することにより、就業後の安全の確保や生産性の向上等に寄与する。

2 対応状況

今年度より、試行的に以下の取組みを実施している。講師等の意見を踏まえ、評価方法の確立を図る。

- (1) 評価シートを作成し、チェーンソー及び林業機械操作実習の講義後、受講態度や技術の習得度等の各評価項目について講師より評価いただく。
- (2) 評価結果について、研修生や就業（希望）先等にフィードバックを行い、以後の研修や就業後に技術を高めるための材料として活用する。
- (3) 修了時の技術水準を確保するため、1年間の研修の中で段階的に習得度の確認を行う体制を構築する。
- (4) 到達目標を定めて職員が定期的に習得度の確認を行い、目標とするレベルに到達していない研修生のフォローアップを行うことにより、一定の技術水準を確保する。

チェーンソー伐木造材技術 個別確認シート

No.	氏名	受講態度		伐木技術の習熟度			評価	コメント
		取り組む姿勢	主体的に行動	①安全に関する知識	②基本理解	③基礎技術		
例	林業 太郎	4	3	3	2	2	14	積極的に取り組んでいるが、つる幅が安定しない。
1							0	
2							0	
3							0	
4							0	
5							0	

※各項目 5 優れている 4 よくできている 3 できている 2 努力が必要 1 理解できていない

※評価 21～25 良くできている 15～20 理解している 10～14 努力が必要

	評価項目の目安	※項目を目安として評価願います
①	安全に関する知識	・正しい服装、保護具を着用して作業しているか ・移動時にはチェンブレイキをかけているか ・キックバックに注意して作業できているか ・事前にリスク等を想像してから作業を行っているか ・適切な立ち位置で作業を行っているか ・周囲の状況を確認し、必要な処理を行ってから伐倒しているか ・退避経路等を事前に定め、伐倒時は速やかに退避を行っているか ・伐倒前に適切に合図を行っているか - 等
②	基本理解	・エンジンの始動方法は適切か ・正しい姿勢及び持ち方でチェーンソー操作を行っているか ・木の状態に応じて適切な伐倒方法を選定しているか ・くさびを適切に使用しているか ・玉切り時に力の方向を見極め、適切な方向に切っているか - 等
③	基礎技術	・自分のイメージどおりにチェーンソーが動かしているか ・受け口、追い口を正確に作れているか ・つるを正しく残せているか ・狙いどおりの方向に伐倒できているか ・かかり木処理を適切にできているか ・目立ては適切にできているか - 等

評価基準の目安		
安全に関する知識	5 優れている	評価項目を達成しており、講師の指示が無くとも安全に作業できていた
	4 よくできている	評価項目を達成していないことがあったが、安全に作業できていた
	3 できている	評価項目を達成していないことがあったが、 大きな危険は無かった
	2 努力が必要	評価項目を達成していないことがあり、 危険な場面があった
	1 理解できていない	講師の指示がなければ重大な事故に繋がっていた可能性があった
基本理解・基礎技術	5 優れている	講師の指示が無くとも、場面に応じて自ら考えて作業できている
	4 よくできている	十分ではないが、自ら考えて作業できている
	3 できている	講師の指示通り作業できている
	2 努力が必要	講師の指示を理解しているが、作業は不十分
	1 理解できていない	講師の 指示を理解していないように感じる

就業前長期研修「チェーンソー伐木造材技術」の実施体制について

1 課題

- (1) 現状の実施体制では一部講師に負担が集中しており、現場業務との両立が困難になっている。
- (2) 研修生間の意欲や技術力の差が大きく、課題への取り組みや復習状況にも差が見られる。チェーンソーに対する意欲の低い研修生も見られ、講師との熱量や目標レベルにギャップが生じている。
- (3) 現行の体制では持続的な講義運営が難しい状況であり、実施体制の見直しが必要となっている。

2 対応方針

- (1) 特定講師への依存を減らし、複数人による指導体制へ移行する。
- (2) 競技や技能検定経験者などを中心に広く候補者へ声掛けを行い、講師人材を確保する。各講師の負担を分散し、継続的な講義運営を図る。
- (3) 講師増員を行う場合、指導内容の統一や講義の質の確保が課題となるため、指導内容の共有方法も確立する。